

平成27年10月27日

北近畿エネルギーセキュリティ・インフラ整備研究会 御中

兵庫県商工会連合会  
専務理事 足立 誠

本日、所用により本研究会を欠席するため、議事内容に関する私の意見を書面にて提出いたします。

## 記

## 1 但馬、丹波等の中山間地域における熱源の状況

現在、但馬、丹波等の中山間地域では、豊岡市及び篠山市内の、一部の市街地ではタンクに貯蔵する形で、既存のガス管により天然ガスが供給されているものの、大半の地域はLPガス及び灯油を主な熱源としている。そのため、都市ガス供給地域に比べて高額な料金を負担しているが、近隣にガスパイプラインが整備されることにより低廉な天然ガス利用が可能となると期待する。

## 2 大規模施設へのコージェネレーションシステム導入の促進

現在、商業施設、病院、福祉施設等でコージェネレーションシステム導入が進んでいないが、低廉な天然ガスの供給は、独立したコージェネレーションシステム導入の可能性を広げるものであり、発電に加え、排熱の利用により省エネルギーに貢献するものとして大きく期待する。

## 3 発電所の立地による産業立地

現在、丹波市山南町では、パルテックエナジー(株)による木質バイオマス発電事業が計画されており、発電規模は22,000kwの予定である。パイプラインの整備により、LNG火力発電所の立地による産業立地が期待され、地域の未利用木材を利用した新バイオマス発電事業とともに、地域の活力となることが期待される。

南北のガスパイプラインの整備は、事業主体とコストの問題はあるが、高齢化が進み、今後、人口減が予想される兵庫県北部の中山間地域活性化に寄与するものと考えられる。